

ふるさと歴史アラカルト

岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物1 吉田松陰1

(1830~1859年)

来年、幕末の長州(山口)を舞台に吉田松陰の妹、文が主役となったドラマが始まる予定となっています。舞台の中心は萩ではありますが、松陰や文と再婚した楫取素彦も含め、この時代に活躍した多くの人々が岩国を訪れています。今回から彼らの訪れた目的やゆかりの場所などを紹介していきます。

吉田松陰は、奇兵隊創設者の高杉晋作や、文と結婚し禁門の変で死去した久坂玄瑞、明治政府で絶大な権力をにぎった山縣有朋など、幕末維新で名を残した多くの人物を松下村塾で教えた教育者として知られており、柱島出身で奇兵隊三代総督の赤瀬武人(あかねたけと)も松陰の教えを受けています。松陰は安政6(1859)年の安政の大獄によって29歳で処刑されるまで、記録で分かるだけでも岩国を4度通っています。今回はその1度目の内容を紹介します。

『東遊日記』によると、嘉永4(1851)年3月、松陰は長州藩主毛利敬親

の江戸参勤に従って岩国を通っています。3月8日に高森(周東町)に宿泊し、翌9日に陸路(山陽道)を玖珂、柱野、関戸、小瀬へと進み、小瀬川を渡って芸州(広島)へ入っています。高森での宿泊場所についてはつきりとした記録は残っていませんが、岩本家に宿泊したと伝えられており、その場所には現在「吉田松陰常宿の地」と書かれた碑が立てられています。また安芸との国境では、中国の鄭という国の王であった荘公が、対立した弟に対して誠実に説得せず、相争って最終的に弟を滅ぼしたことを漢詩に詠んでいます。松陰は、宗家である毛利家が同族である吉川家に対し、誠実に接するべきだと考えていたようです。

この思いが通じたのか、後に毛利家と吉川家は協力体制を築いて幕末の動乱を乗り切っていきました。関戸にはこの漢詩の一部が刻まれた「吉田松陰先生東遊記念碑」が立てられています。



◀吉田松陰先生東遊記念碑(関戸)



▲「吉田松陰常宿の地」と書かれた碑(周東町高森)

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎④0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 141,857 人【前月比 -88人】 男性 67,172 人 女性 74,685 人

世帯 66,718 世帯【前月比 -10世帯】 ※外国人人口を含む(平成26年10月1日現在)

交通事故発生件数 9月分事故件数 39件(384件) 死者数 0人(6人) 傷者数 43人(453人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成26年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎②31234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎②95016 FAX②13337